

志の公認会計士

久野康成の

# 「私なら、こうする！」

最終回(第92回)

非常識な実践経営アドバイス



## Question

どのようにすれば、仕事をする上で高いモチベーションが維持し続けられますか？

(東京都 会社員 25歳)

## Answer

成功するには高いEQを身に付けることが大切

頭の良い人が必ずしも仕事で成功できないのは、モチベーションが長く維持できないことも原因のひとつだと思います。頭が良い(IQ=知能指数)ことと感情のコントロールができること

(EQ=感情指数)は、根本的に異なる能力であり、社会で成功するためには、IQ×EQの総合力が求められます。学生時代までは、IQの高さで成績や順位が決まるので、社会人になってからも、学習が知識中心に偏る人が多くいます。

しかし、実際に社会で成功し

ている人の多くは、高いEQを持っていきます。EQは長い人生の中で習慣として身につくものであり、簡単には変えられませんが、変える方法を正しく理解することでモチベーションも長く維持できるようになります。

まず、モチベーションは人から与えられるのではなく、自分自身の目標や情熱によって維持すべきものであることを知るべきです。人間は周りの環境によって影響を受けやすく、すぐ

にやる気が失せることがあります。この時、自分のやる気のなさを他人の責任と考え、コントロール不可能なものと思つた瞬間、人生の敗者となります。

20代はお金や時間の制約だけでなく、仕事も必ずしも自分からやりたいことができるわけではありません。30代になると仕事の慣れが飽きに変わり、新しいことを求めたくなります。40代から50代は人生の半分が過ぎ、過去を振り返つた時に達成感の

なさに愕然とし、60代は、セカンドライフを描ききれず、70代以降は、人生の長さの制約に影響され、昔話ばかりするようになります。

人生とは、自分の思うようにはならないもので、その制約を楽しめなければ決して幸福にはなれません。

目標設定の誤りがモチベーションに大きく影響を与えることもあります。一般に、目標を持つことは良いこととされていますが、大半の目標は、自分が得たいことが設定されるため、それを得るためのプロセスを楽しむことができません。

私は弁護士になる目標を持っていましたが大学受験に2度失敗し、法学部に入ることもできず、本当に落ち込んで、生きがいを見失いました。目標設定を公認会計士に変えてみましたが、今ひとつ、しっくりきません。20代前半は、私にとって暗黒の時代でした。

お金、出世、社会的地位などを

目標設定すれば、達成した時に大きな喜びを味わうことができます。もしかかもしれません、すぐに、次の目標が必要になります。達成できないと分かった時には、大きく落ち込みます。

### 自分の強みを生かせる長期目標を設定すべきです

長期的にモチベーションを維持するためには、達成可能な短期の目標を設定することは誤りなのです。短期目標の延長線上に長期目標が存在しているわけではありません。短期の目標は、マイルストーンにすべきです。人生を超え、世代を超えたところに目標を設定しなければ、人生の長さに制約を受けます。「もう若くないからできない」と思う人は、若い時からできない人なのです。

長期にモチベーションを維持するためには、世代を超えられる長期目標を設定すること、得たいものではなく、自分の強みを生かして世の中に与えられる

ものを考えること、そして、人生の意味を深く理解し、正しい哲学を持つことが重要になります。今の現実には甘んじることなく、理想を描き、理想と現実のギャップを埋めるプロセスを楽しまなければいけません。日々の生活は、決して刺激的なものではなく、単純なことの繰り返しです。その繰り返しの中で良い習慣を身に付け、確実に前進していくことです。

ある程度事業で成功した人がその後の人生で、坂を転がり落ちることがあります。宝くじで大金を得た人の多くが不幸な経験をするのも、自分でお金をコントロールでき

ず、お金に自分の心が支配されてしまうからです。怒りやコンプレックスをバネにモチベーションを維持しても、いずれ歪みが生じます。

しかし、どこかの時点で、自分が持っていた目標が、あるべき姿でなかったことに気づけば、人生は好転します。決して刺激的な人生とはならなくても、心の平静を保つことができ、日常に感謝できるようになります。感謝は、価値提供の対象を再認識させてくれるもので、長期目標の確認作業なのです。長期にわたる高いモチベーションの維持は、自分の哲学と深く結びついているのです。

長らくご愛読いただき、ありがとうございます。

### [プロフィール]

久野康成(くの・やすなり) 公認会計士。久野康成公認会計士事務所 所長。株式会社東京コンサルティングファーム代表取締役会長。東京税理士法人 統括代表社員。1965年生まれ。愛知県出身。滋賀大学経済学部を卒業後、青山監査法人(プライス ウォーターハウス) 入所。監査部門・中堅企業経営支援部門にて、主に株式公開コンサルティング業に携わる。98年久野康成公認会計士事務所を設立。東京のほか、横浜、名古屋、大阪、インドを始めとする世界20カ国にて、「第2の会計事務所」として会社を設立。経理部門へのスタッフ派遣・紹介などの幅広い事業を展開。グループ社員総数は約300人。著書に『できる若者は3年で辞める!』『母性の経営』(出版文化社)、『インドの投資・会社法・会計・税務・労務』(TCG出版)等がある。